

=市史編さん便り= 【53号】 令和5年1月17日(火) 発行.

*****土佐清水市教育委員会生涯学習課・市史編さん室

清水高等学校 2 年生・総合学習のゲストティーチャーとして —ジョン万次郎の調べ学習をアドバイス—

昨日1月16日(月)15時25分より清水高等学校2年生の7校時目総合学習において、ゲストティーチャーとして市史編さん室田村公利・吉本工心が郷土の先人・ジョン万次郎について約50分にわたり講話を行った。授業には担任・武政亮二教諭、北代可也講師とジョン万次郎についての課題を研究している清水高等学校2年生5人のメンバーが参加した。



↑清水高等学校では、2月に学習発表会を組んでおり、このグループ(2年生)は、ジョン万次郎について研究してきたことをそこで発表する予定である。

この2年生は、清水中学校1年の時に市史編さん室田村が1年間社会科を指導した生徒たちである。その後、市史編さん事業を行うため退職して教職を去った。以来4年。久々の授業となったわけだが、真摯に聴く生徒たちの姿勢に成長の跡を感じた。鋭い質問が寄せられ、深い勉強ができていることに驚きを覚えた。

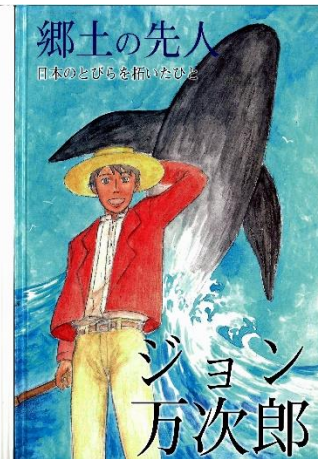
万次郎は、帰国後の大活躍もさることながら、少年時代に中浜浦で過ごした14年間の生涯の礎、人間万次郎を形成した骨格。ジョン万スピリットの原点は、「故郷・土佐清水市」での叩きあげられた少年期にある。万次郎は中途半端な学習では理解できない。人の生き死に。すなわち「生死(しょうじ)」の中で捉えていくことが肝要である。清水高校生に厚いエールを送りつつ、改めて地域学の大切さを感じた。

土佐清水市教育委員会管内の中浜万次郎教育 谷岡暁美編集委員

昨日1月16日(月)11時に学校教育史執筆を担当されている谷岡暁美市史編集委員がゲラ刷りの校正原稿を市史編さん室に提出しました。全体の文脈の流れと個々の細かい表現について丹念な校正がなされていました。ここで谷岡暁美編集委員が執筆した「第9章学

校教育史」のトピックの一部を以下紹介します。

学校での万次郎教育は、万次郎生誕の地にある中浜小学校で昭和 48 年前後に始められたようだが、系統的、計画的なものではなく、万次郎の名前を使った行事などの単発的なものであったようだ。同年には中浜博氏（中浜家 4 代目）からの寄贈で書物及び本棚を主体とした「万次郎文庫」が開かれた。



平成 22 年、同小学校では、「ジョン万スピリッツ」(①旺盛なチャレンジ精神をもつ ②大事な場面で、自分で決断し、結果を他人のせいにはしない ③決してあきらめない ④ひととのかかわりをたいせつにする)を継承していくことを目標に「ジョン万ふれあい祭り」を立ち上げた。祭りには外部から講師を招聘して万次郎に関係ある演題で講演を行った。子どもたちは、高学年は劇を、中学年は英語を取り入れての朗読等に取り組んだ。

その他に、6 年生には、万次郎が生まれてから亡くなるまでの資料（校長作成）を学ばせた。こうして子どもたちは、学校訪問の方々に「ぼくたちは万次郎のことを勉強しています」とこたえるようになった。

平成 30 年、教育委員会は、郷土の偉人「中浜万次郎」の功績を再確認し、一生懸命に生きた万次郎の生き様「共生の信条」と「自立の精神（ジョン万スピリット）」を各学年において学習できる伝記集（副読本）を編集することを目的とした副読本編集委員会を教育研究所に設置した。編集委員は、①学識経験者 2 名 ②学校関係者 4 名 ③教育委員会 1 名 ④教育研究所 2 名 ⑤その他教育委員会が必要と認めるもので構成した。

編集委員会は、『子どもと教師が共に学べる内容にする』ことを念頭に置いて、小 1～中 3 までのライフステージに応じた内容を次のように編集し、作成した。

低学年・・・紙芝居（出生から晩年まで）

中学年・・・絵本（出生から出漁、遭難、鳥島での生活を中心に描く。資料の視覚化等の工夫をする）

高学年・・・救助されてからアメリカでの生活・帰国後の生き様が中心の冊子
共生の信条、自立の精神（ジョン万スピリッツ）がどのように生まれ、育ってきたか

中 学・・・図書紹介資料集作成

児童生徒・教師用推薦図書の紹介（一覧表作成）

令和 2 年、教育長が「ジョン万を学べる教材ができたので、各校で具体的な取り組みをして、郷土の偉人を誇りをもって語れる子どもを育ててほしい」と校長会で提起して、伝記集（副読本）を市内全校に配置した。